

令和4年度 みらいホーム 事業報告書

1 総括

新型コロナウイルス感染症の流行以降、感染防止対策や罹患者への対応に追われてきたが、特に令和4年度は、同時期に複数のユニットで複数の罹患者があり、グループホームにおける感染防止策の徹底に加え、隔離、医療的対応、支援体制の確保など罹患者後の対応の難しさを痛感した。グループホーム開設以来、一人ひとりが安心して暮らしていける居場所となることを目標とし、雰囲気づくり、個別支援計画の充実・共有、支援記録の整備等に取り組み、徐々にではあるが入居者を主体とした生活支援の形が作られてきたが、新型コロナウイルス感染症を経験し、安心できる居場所となるには、感染症への対応などまだまだ不足していることがあることに気づかされた。また、数年来計画にあげながら進められなかった、入居者の将来に備えたグループホームの支援の拡充については、通院同行、買い物、金銭管理、行政手続きなど生活において必要なことを誰がどのように行っているか等の生活状況をまとめるノートの様式を作成した。次年度以降このノートを基にどの時期にどの支援を家族からホームに移行させるかについて、検討を行う予定である。

2 事業概要

- 1) 施設名 みらいホーム
(ユニット：アンダンテ、クローバー、藤ハウス、花の樹、カトレア)
- 2) 事業種別 共同生活援助（介護サービス包括型事業所）
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町7-5-33
- 4) 経営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 31名（令和5年3月31日現在）
(アンダンテ4名、クローバー7名、藤ハウス6名、花の樹7名、カトレア7名)
- 6) 利用現員 31名（令和5年3月31日現在）

ユニット	定員	現員
アンダンテ	4名	4名（内男性4名）
クローバー	7名	7名（内男性4名、女性3名）
藤ハウス	6名	6名（内男性6名）
花の樹	7名	7名（内男性5名、女性2名）
カトレア	7名	7名（内女性7名）

- 7) 法人認可年月日 平成14年12月13日
- 8) 事業開始年月日 平成15年1月1日
- 9) 職員 (令和5年3月31日)
管理者 1名
サービス管理責任者 2名（兼務：常勤換算2.0）
世話人 16名（常勤換算11.7）
生活支援員 22名（常勤換算14.0）

3 基本理念

一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

4 基本方針

- 1) 安定した日常生活の保障
- 2) 入居者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 3) 入居者の相談支援
- 4) 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

- | | | |
|---------|--------|-------------|
| 5時00分～ | 7時30分 | 起床 |
| 7時30分～ | 9時30分 | 通所事業所、会社へ出勤 |
| 15時40分～ | 17時00分 | 帰宅 |
| 16時00分～ | 20時30分 | 入浴 |
| 18時15分～ | 19時15分 | 夕食 |
| 20時00分～ | 22時00分 | 就寝 |

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 活動

(1) 入居者が安心して充実した生活を送れるよう支援する。

- ① 入居者一人ひとりが生活の主体者であるということを基本に、個々に合わせた支援の充実を図る。

【成果と課題】

入居者の特性や意向などを職員が把握することで入居者個々が望む生活を送ることができるよう、より具体的な内容を盛り込んだ個別支援計画を作成した。また、ケース検討会議や共有事項の記録等を活用し、支援内容を共有することに努めた。徐々にではあるが、職員全体に個別支援計画が浸透してきている他、グループホーム全体で、支援者の都合ではなく入居者を主体とした生活スタイルを確立するという視点が共有されてきている。

- ② 安心できる環境づくりを行う（感染症防止・空間・関係性・関わり方・健康管理など）

【成果と課題】

日常生活における基本的な感染症防止対策を実施したが、5ユニットすべてのホームで入居者31名中15名が新型コロナウイルス感染症に罹患し（多くは通所先からの感染の可能性が高い）、その内4ユニットで7名の陽性者の支援を行った。重症化した入居者はいなかったが、職員への感染や感染拡大防止の為、少数の職員で支援したことによる一部職員への負担増、リスクの高さによる職員の退職、感染防止に適さない建物構造、通院ができない時のための訪問医療の必要性等多くの課題が見えた。また、通所先で数日間利用者の通所を停止したことや行事等の中止、法人内事業所の作業交流の中止等もあり、入居者に混乱や落胆の様子が見られた時もあり、共感や丁寧な説明を行うことに努めた。気持ちが大きく不安定になる入居者も1名いたが、多くの利用者は概ね安定して過ごすことができていた。

- ③ 事故防止を徹底する

- ・服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
- ・無断外出行為のある利用者に対し、見守り及び建物内の施錠を徹底する。
- ・整理整頓や環境への配慮など転倒等によるけがの防止に努める。

【成果と課題】

8月に花の樹の入居者が室内で転倒してけがをする事故が発生した。入居者へ言葉かけの配慮が不足し大きな声で強く注意を促したことが転倒につながった可能性がある事故であった。入居者の特性を日頃から職員間で共有するとともに、心情面に配慮した支援を行うことについて改めて確認を行った。

(2) 高齢化に向け将来に備えたホームの機能を拡大する

- ① ホームが生活全般のコーディネートをしている7名の支援内容を検証したうえ、必要に応じて支援の見直しや拡充を行う。

【成果と課題】

すでに、生活全般のコーディネートを行っている7名については、生活上の大きな変化はなく、これまで通りの支援を継続した（通院同行、預り金管理、移動支援利用時の予約、行政等手続きの補助等）。また、その他の入居者についても生活状況に大きな変化はみられず、家族とグループホームの支援の役割分担（通院、買い物、行政手続き等）についても変更はなかった。

- ② 全入居者の家族が行っている支援とグループホームが行っている支援を整理した一覧表（通院、買い物、行政手続き、小遣い管理、散髪など）を更新し、必要に応じ家族等へ状況の確認や面談を行う。
- ③ ②の一覧表をもとに段階的に家族からホームへの支援の移行計画を作成する。

【成果と課題】

全入居者31名について、家族等が行っている支援とグループホームが行っている支援を整理した一覧表を更新した。家族からグループホームへの支援の移行計画を作成するにあたり、一部のご家族より「何をいつ頃に移行するか等の具体的なイメージがもちにくい」「自分たち家族も整理できていない事がたくさんある」等の意見があったことを踏まえ、まずは、通院、買い物、散髪、金銭管理、行政手続きなどを誰がどのように行っているかを詳細に記録したノートの作成を行った。これを基に次年度以降に、どの時期にどの支援を家族からグループホーム移行させるかについて、本人や家族と一緒に考えていく予定である。

(3) 個別支援計画の作成・評価の充実を図る

- ① 長期的な視点や生活全般の目標設定を計画に盛り込むとともに、支援の統一が図れるよう、より具体的な支援内容を盛り込んだ計画を作成する。
- ② 個別支援計画を全職員で共有する。
- ③ 個別支援計画に基づいた支援を行い、支援経過の記録や会議等で共有するとともに、それに基づいた評価、見直しを実施する。

【成果と課題】

実際の支援に関連付けしやすいうように、より具体的な支援内容を盛り込んだ支援計画を作成し、評価や見直しについても昨年度と比較し、丁寧に実施することができた。また、ケース検討会議で個別支援計画の共有を図ったほか、ケース記録用紙への記載、各種ファイルへの貼付等で全職員への周知を図った。これにより、支援計画が徐々に職員全体に浸透してきており、支援の統一が進んでいると感じている。但し、ケース記録については、昨年度と比較すると利用者の様子がより丁寧に記載されるようになってきてはいるが、スキルの問題もあり個別支援計画に沿った記録という点ではまだ不十分である。

(4) グループホームなどの住まいの拡充

新規グループホーム開設に向けた検討を行う（令和7年度以降開設見込）

入居希望者や家族と面談を行い、グループホームでの生活事例の紹介や希望の聴取を行うことで生活イメージの共有を図る。

【成果と課題】

1月に入居希望者の家族と面談を実施し、グループホームでの生活事例の紹介等を行った。まだ開設までに時間を要すことから、今後も継続的に面談等を実施し、法人内のグループホーム見学会や希望聴取により生活イメージを共有していく予定である。

2) 人材育成

(1) 主たる職員の育成・指導

- ① 入居者の一人一人の生活全般におけるきめ細やかな支援を行う。
- ② 支援計画に基づいた支援を実施するとともに支援経過の記録を不備なく行う。
- ③ 支援及び記録内容等について、その他の職員と共有を図るとともに必要に応じて指導を行う。
- ④ その他の職員とコミュニケーションを図り勤務のコーディネートを行う。

【成果と課題】

全ユニット（3月末現在3名の職員）とも、日常の生活については利用者の意向を確認しながら丁寧な支援が行えた。主たる職員を主導に、個別支援計画が共有されてきており、徐々にではあるが各ユニットが個別支援計画に沿った支援が行えるようになってきている。また、勤務のコーディネートについても臨機応変に実施できた。10月に主たる職員1名が退職したが、後任職員の採用ができておらず、3月末現在、あと2名の職員採用が必要な状態である。人材の確保、育成は引き続き大きな課題である。

(2) その他の職員の育成・指導

- ① 個別支援計画を把握し、計画に基づいた入居者支援を丁寧に行う。
- ② 支援の統一を図るとともに支援技術のノウハウを蓄積する。
- ③ ケース記録に利用者の様子や支援経過を丁寧に記載する。

【成果と課題】

7-1) - (3) に記載の通り。

3) 経営管理

令和3年度比で利用実績が0.7%減となったが、入居者1名の障害支援区分が高くなったことが影響し、訓練等給付費収入、補助金事業収入（都加算）ともに3年度を上回り総額約140万円増となった。

《利用率》

4年度実績	3年度実績	2年度実績	元年度実績
73.1%	73.8%	73.6%	72.6%

《給付費等収入》

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
訓練給付費収入	7,684万円	約7,556万円	約7,638万円	約7,274万円
都加算の収入	2,386万円	約2,375万円	約2,482万円	約2,514万円
総額	約10,070万円	約9,931万円	約10,120万円	約9,788万円

(1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算表の分析により月々の経営状態の把握に努め、計画的に予算を執行した。

(2) 将来の建物修繕等に備え、家賃収入等から資金を計画的に積立てる。

【成果と課題】

法人所有の建物である、クローバーとカトレアについては、将来の建て替えや大規模修繕用に備え、計画に従い以下の通り年度末に積立を実施した。

《クローバー》

	令和3年度累計積立額	令和4年度の積立額	令和4年度末の合計
建て替え用資金	3,600,000円	900,000円	4,500,000円
大規模修繕用資金	918,000円	230,000円	1,148,000円

《カトレア》

	令和3年度累計積立額	令和4年度の積立額	令和4年度末の合計
建て替え用資金	2,700,000円	900,000円	3,600,000円
大規模修繕用資金	720,000円	240,000円	960,000円

8、その他の成果と課題

1) 市内グループホームとの連携・強化

新型コロナウイルス感染症流行前は、隔月に1回、市内のグループホームの職員が集まり、入居者支援に関することや業務全般について情報交換を行う機会があったが、令和2年度以降、感染症拡大防止や各法人が感染症への対応業務に追われることが多く1回も実施していない。一部の近隣のグループホームとは、利用者支援の事例相談や感染症への対応等についての情報交換を行い支援に役立てる機会があった。

2) バックアップ施設による支援

- ・アンダンテ - 入居者の健康管理等の相談を行った他、管理業務の補助を行った。
(新型コロナウイルス感染症流行以前は、月に1回実施していた、入浴施設及び外食時の巡回は感染症拡大防止のため、令和4年度は実施しなかった。)
- ・藤ハウス - 入居者の健康管理等の相談、外出支援、通院同行、管理業務の補助を行った。
(月に1回実施していた、夢風船での入浴支援は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、8月より一時中止。)
- ・クローバー - 入居者の健康管理等の相談、管理業務の補助を行った他、月に1回程度ホームへの巡回を行った。
- ・花の樹 - 入居者の健康管理等の相談を行った他、管理業務の補助を行った。
- ・カトレア - 入居者の健康管理等の相談を行った他、管理業務の補助を行った。

＜バックアップ施設＞

- ・ワークセンター夢の樹
- ・夢の樹みどり
- ・小平第二みどり作業所
- ・夢風船

3) 夜間等緊急時の対応

緊急時は、管理者と主たる職員のうちの2名の計3名が対応することとなっているが、夜間に緊急体制を要する事案は発生しなかった。

4) 世話人・法人意見交換会の実施

主たる世話人と管理者及び法人の理事2名が意見交換を目的とした懇談会を実施し、主たる世話人より業務上抱えている悩みやグループホームの課題等が挙げられた。解決や改善等には中長期的に取り組むものが多かったが、理事と課題等を共有する良い機会となった。次年度以降も、不定期で意見交換会を開催する予定である。

9、事故報告

7-1)(1)③に記載。

10、実施状況

1) サービス実施日数	期間	自：令和4年4月1日	至：令和5年3月31日
(1) アンダンテ		365日	
(2) クローバー		365日	
(3) 藤ハウス		365日	

- (4) 花の樹 365日
- (5) カトレア 365日

11、利用状況

- 1) 入居者延人員 8,275人
- 2) 一日平均利用人員 22.7人

ユニット	入居者延人員	一日平均利用人員
アンダンテ	998人	2.7人
クローバー	2,194人	6.0人
藤ハウス	1,628人	4.5人
花の樹	1,611人	4.4人
カトレア	1,844人	5.1人
合計	8,275人	22.7人

12、入居者状況（令和5年3月31日現在）

1) 年齢

- ・20歳以上30歳未満 1名
- ・30歳以上40歳未満 12名
- ・40歳以上50歳未満 8名
- ・50歳以上 10名

ユニット	20代	30代	40代	50代
アンダンテ		1名	2名	1名
クローバー		2名		5名
藤ハウス		2名	2名	2名
花の樹		5名	1名	1名
カトレア	1名	2名	3名	1名
合計	1名	12名	8名	10名

2) 障害の状況

(1) 障害の状況

- 愛の手帳2度 13名（内身障手帳所持 2名、精神保健手帳所持 1名）
- 愛の手帳3度 7名（内身障手帳所持 1名）
- 愛の手帳4度 6名（内精神保健手帳所持 1名）
- 身体障害者手帳1級 1名（内愛の手帳所持 1名）
- 身体障害者手帳2級 2名（内愛の手帳所持 2名）
- 精神保健手帳2級 3名（内愛の手帳所持 2名）

(2) 障害支援区分

- ・区分2 2名
- ・区分3 6名
- ・区分4 10名
- ・区分5 11名
- ・区分6 2名

ユニット	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
アンダンテ	1名	3名			
クローバー		1名	4名	2名	
藤ハウス		2名	2名	2名	
花の樹			2名	4名	1名
カトレア	1名		2名	3名	1名
合計	2名	6名	10名	11名	2名

3) 居住状況

管内居住 24名 管外居住 7名

4) 性別

男性 19名 女性 12名

1.3 環境の整備

グループホーム内の美化及び整理整頓を行い、衛生保持、また転倒の防止に務めた。

1.4 健康管理

日常的に検温、手洗い、消毒等の基本的な感染対策を行った。また、入居者の日中活動先で新型コロナウイルスの陽性者が出た場合は、他の入居者及び家族等へ情報提供を行った他、入居者同士の時間差の食事、1回ごとの浴槽の湯の張替え等の感染対策を実施した。また、希望する職員及び利用者には新型コロナウイルス及びインフルエンザのワクチン集団接種を実施した。

食事作りについては、健康管理のための栄養バランスを意識するとともに日頃運動量が少ないことから肥満防止について特に注意を払った。毎月1回の体重測定を実施しているが、概ね現状の体重を維持することができた。このほか、風邪症状、皮膚疾患、歯科・眼科検診等、必要に応じて通院同行を行った。年間を通して、疾病等により、大きく体調を崩す入居者はなく、健康状態を維持することが出来た。

1.5 防災計画

災害時避難訓練を年2回実施した。また、3月に当法人と小平手をつなぐ親の会との共催の防災訓練に2名が参加した。